

本資料は 2025 年 1 月 13 日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC 所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター
一般財団法人 電力中央研究所
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス
原子力リスク研究センター所長

2025 年 1 月 20 日

ジョン W. ステットカー氏
技術諮問委員会委員長

件名：2025 年 1 月 13 日「リスク情報を活用した運転中保全ガイドラインの中間レビュー」

ステットカー委員長

リスク情報を活用した運転中保全ガイドラインのレビューについて TAC 会議での議論に対し、委員会に感謝申し上げます。NRRC は TAC の提言について、以下の通り回答する。

1. 現在のガイドラインでは内的事象のリスク評価は確率論的リスク評価にて実施し、外的事象のリスク評価は決定論的評価にて実施することとしており、その結果に基づいてリスク管理措置を決めることとしている。このガイドラインを定量的評価および定性的評価の双方において内的事象および外的事象を考慮し、リスク管理措置を決めることとするよう、改訂する。
2. 運転中保全における性能監視に係る事項の管理について、本ガイドラインにて新たに追記すべき内容について検討し、必要に応じてガイドラインを改訂することとする。
3. 運転中保全により、100TBq を超える Cs137 の放出頻度に対する有意な影響がないことを確認する旨をガイドラインに追加する。100TBq を超える Cs137 の放出頻度の評価に関するガイダンスは、現行のレベル 2PRA 標準および安全向上評価に関する運用ガイドに記載されている。

運転中保全ガイドラインの更新についての TAC メンバーの引続きのご助力に感謝申し上げます。

敬具

A handwritten signature in blue ink, appearing to read 'George Apostolakis', written in a cursive style.

ジョージ・アポストラキス（本人署名）